

15 フランス人と和楽器奏者（2020年12月3日）

パリに来て、フランス人の和楽器奏者とお会いしました。日本人の中でも、ピアノやバイオリンと比べると、和楽器を演奏したことのある人は多くありません。彼らは、どのようにして和太鼓、三味線や尺八と出会い、プロの演奏者になったのでしょうか。

まずは、打楽器を代表して、和太鼓をご紹介します。パリでは、Paris Taiko Ensemble、和太鼓・真 (Wadaiko Makoto)、Tsunagari Taikoの三つの和太鼓チームが活動しています。Paris Taiko Ensemble 代表のトゥルガ・イエジラルタイさんは、13年前に和太鼓の演奏を聞いたことで和太鼓の魅力に取りつかれ、一年後には仕事を辞めて日本に渡って、和太鼓の修行を積みました。日本では、厳格な生活を送ることで、和太鼓の精神性も学んだそうです。今でも一日8時間の練習を繰り返しています。現在は、パリ市内で初心者から上級者まで多くの生徒に、和太鼓を教えています。魂のこもったお腹に響く力強い演奏は、フランス国内だけでなく国外でも多くの観客を魅了しています。



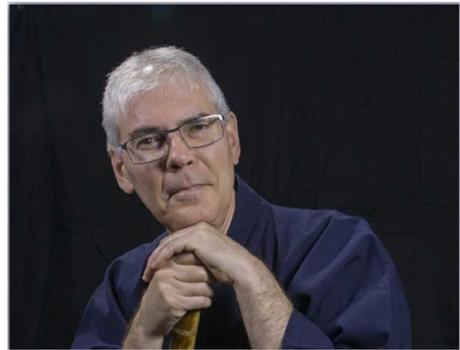
次は、三味線です。三味線は、弦楽器に分類されます。ギターを教えていたシルヴァン・ディオニさんは、最初は民謡三味線を習っていましたが、後に津軽三味線の澤田流に入門しました。シルヴァンさんは、フランス人で唯一の津軽三味線の名取で、澤田春吟という名前を持っています。シルヴァンさん



も、フランス国内だけでなく国外でも演奏会を行ったことがあります。かつては三味線が動物の皮を使っていたことから、空港の手荷物検査で質問されることもありましたが、今は質の良い合皮が使われるようになって飛行機での移動が楽になったそうです。フランスで三味線奏者を増やしたいと考えていらっしゃいます。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

最後は、管楽器の一つである尺八です。ダニエル・リファーマンさんは、1983年に訪日した際に尺八と出会って、尺八を習い始めました。ダニエルさんによると、尺八とフルートの違いは、縦笛か横笛かという違い以外に、美意識が違うそうです。尺八には穴が5つしかないので出せる音に限りがあり、フルートのように早く音を出すことはできません。正しい音が決まっているわけではなく尺八の音には幅があり、水が流れる音や鳥の声のように自然の音に近い音で、体全体で表現する楽器だと話してくれました。フランスには100名以上の尺八奏者がいます。ダニエルさんも尺八を教えていて、すでに5名のお弟子さんが師範の資格を取得したそうです。



お三方とも、楽器を演奏するための技術だけでなく、演奏する際に求められる精神性も学んでいらっしゃることに感銘を受けました。お三方がこれからも活躍されて、フランスで和楽器の魅力が広まることを期待しています。